

行学の二道をはげみ候べ
し。行学たえなば仏法は
あるべからず。我もいた
し、人をも教化候え。行
学は信心よりおこるべく
候。力あらば一文一句な
りともかたらせ給うべし。

(御書新版 1793ページ・御書全集 1361ページ)

通解

行学の二道を励んでいきなさい。行学が絶えてしまえば仏法はない。自分も行い、人をも教化していきなさい。行学は信心から起こる。力があるならば一文一句であっても人に語っていきなさい。

信心根本で飛躍の一年を！

よくわかる解説

皆さんこんにちは！ サンです！ 「世界青年学生躍動の年」が始まったね☆ 今年もみんなで御書を学び、自分を磨く一年にしていこう！

今回学ぶ「諸法実相抄」は、1273年（文永10年）、日蓮大聖人が52歳の時に佐渡で著され、最蓮房に与えられたお手紙とされています。最蓮房は、大聖人と同じ時期に佐渡に流罪されていた天台宗の学僧で、大聖人と出会い、弟子になったといわれています。

この御文の中で、大聖人は、仏道修行には「行学の二道」が欠かせないと説いています。「行」は、自身の生命を磨く勤行・唱題の「自行」と、周りの人に仏法の教えを語る「化他行」のこと。「学」は、仏法の法理を学び深めることです。

私たちに置き換えると、池田先生の励ましの言葉を周りの友人に伝えたり、先生の著作を学んで理解を深めたりする取り組みが、そのまま「行学」の実践に通じるんだ。もちろん、毎月の「ビクトリー御

書」を通して、御書を研さんすることも、「学」の実践になっているよ！

何より大切なのは、「行学は信心よりおこるべく候」と述べられているように、どこまでも妙法を信じ抜くことだよ。“信心で乗り越えられない壁はない！”との確信で祈ること——これは、自分自身の可能性を信じることにもつながるよね。「信」を根本に、「行学」に励むことで、どんな困難にも負けない、勝利の人生を歩んでいくことができるんだ。

池田先生は語っています。

「祈りは、ひたすら御本尊に思いの丈をぶつけていけばいいんです。その際、“信”を入れること、つまり、どこまでも御本尊を信じ抜き、無量無辺の功德力を確信して、魂のこもった祈りを捧げることです」

新年を迎えた今、一年の目標を掲げてスタートした人も多いはず。真剣な祈りと、「行学の二道」の実践で、さらなる飛躍を目指して、大成長の日々を送っていこう！